

IPBESのマンデートと組織, 研究者の関わり方

東京大学
橋本 禅

IPBESの概要

- **正式名称**

生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学－政策プラットフォーム
(Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services) イブレス(イッベスに近い)

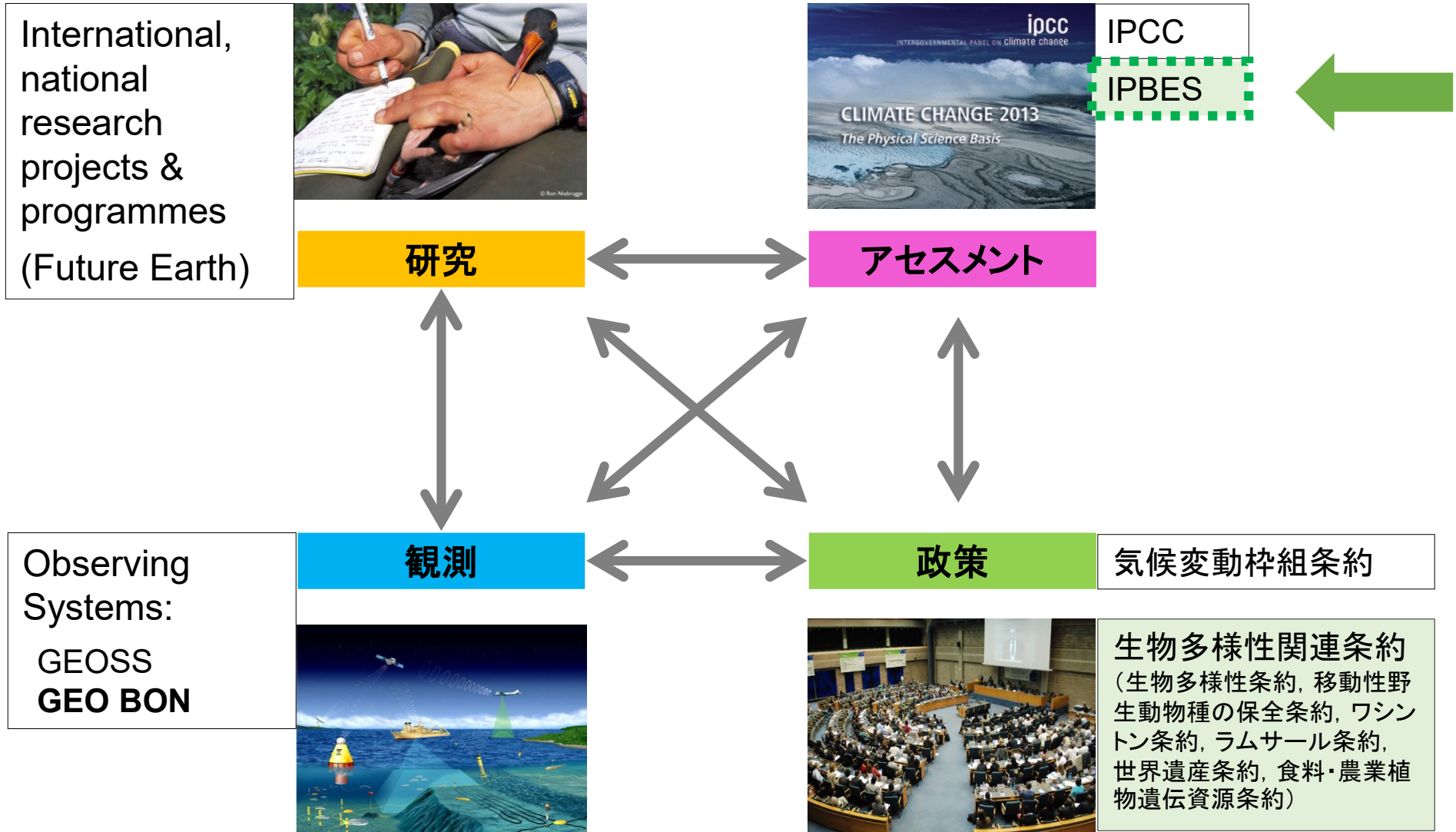
- **組織形態**

- 独立した政府間組織(参加国が設立)←国連機関ではない
- 事務局:ボン、ドイツ
- 2021年3月現在で137か国が加盟

- **目的**

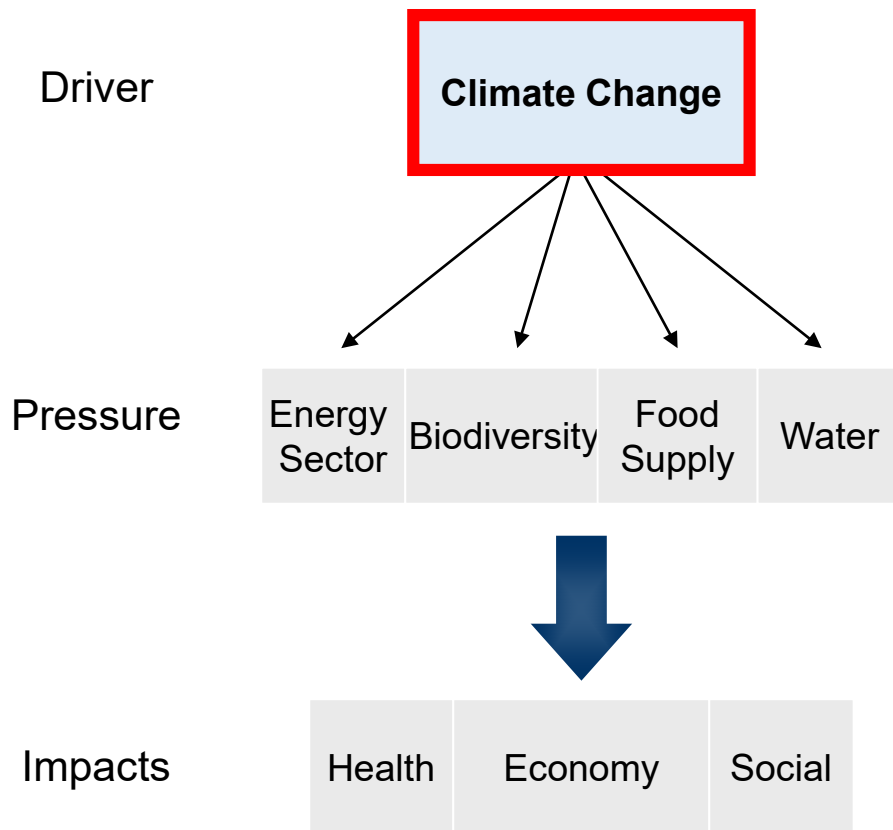
- 生物多様性の保全と持続可能な利用、長期的な人間の福利、持続可能な発展のための、生物多様性と生態系サービスの科学と政策のインターフェースの強化 (生物多様性版IPCC)
- 生物多様性や生態系サービスの現状や変化を科学的にアセスメントし、報告書を作成

IPBESに期待される役割



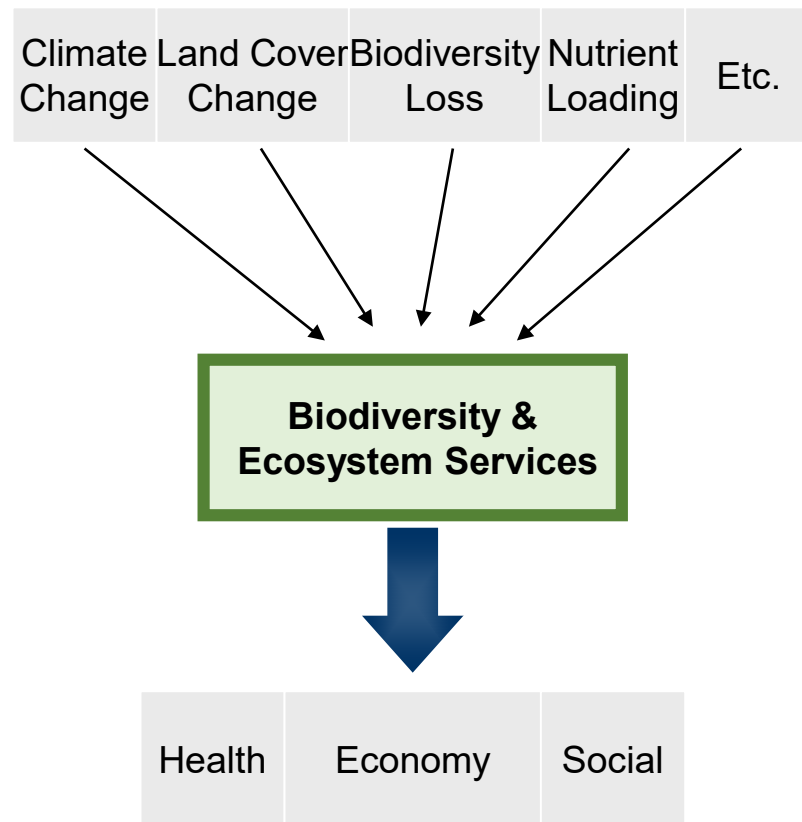
IPCCとIPBESのスキームの違い

IPCC



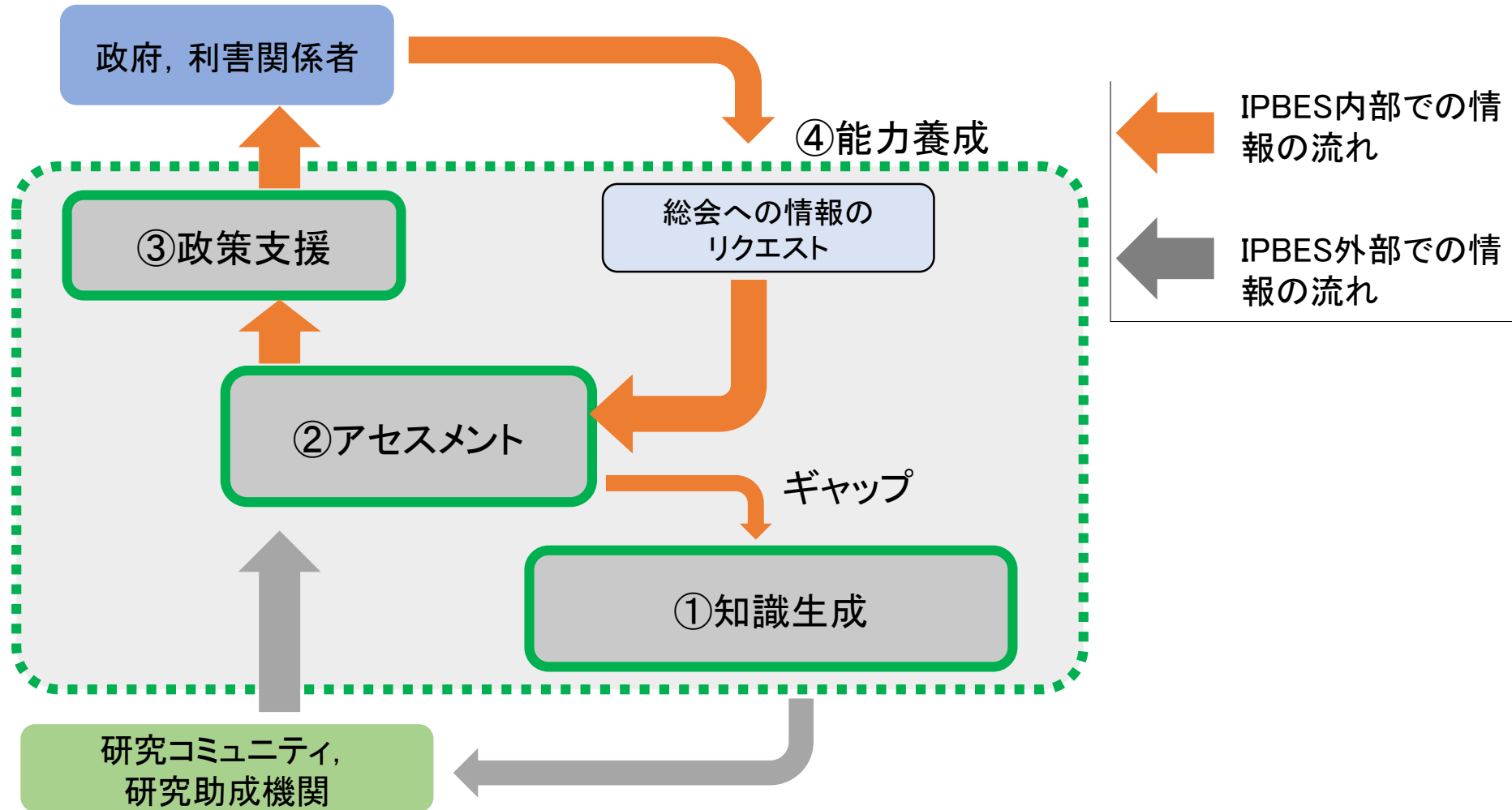
気候変動による環境や人間社会への様々な影響を評価

IPBES



生物多様性(B)と生態系サービス(ES)を中心に、BESの状態に影響を与える諸要因や帰結を評価

IPBESの4つの機能



- ① 政策担当者が必要とする重要な科学的情報を特定, 優先順位をつけ, 新たな知識生成を促進する機能,
- ② 定期的かつタイムリーに必要なアセスメント実施する機能
- ③ 政策の立案や実施を支援する機能
- ④ 科学と政策との連携の改善と関係者の能力養成の機能

IPBESの組織構成

Intergovernmental science-policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services

IPBES総会： 137 の加盟国が1～2年に1回開催

ステークホルダー：
すべてのエンドユーザー
& 参画者

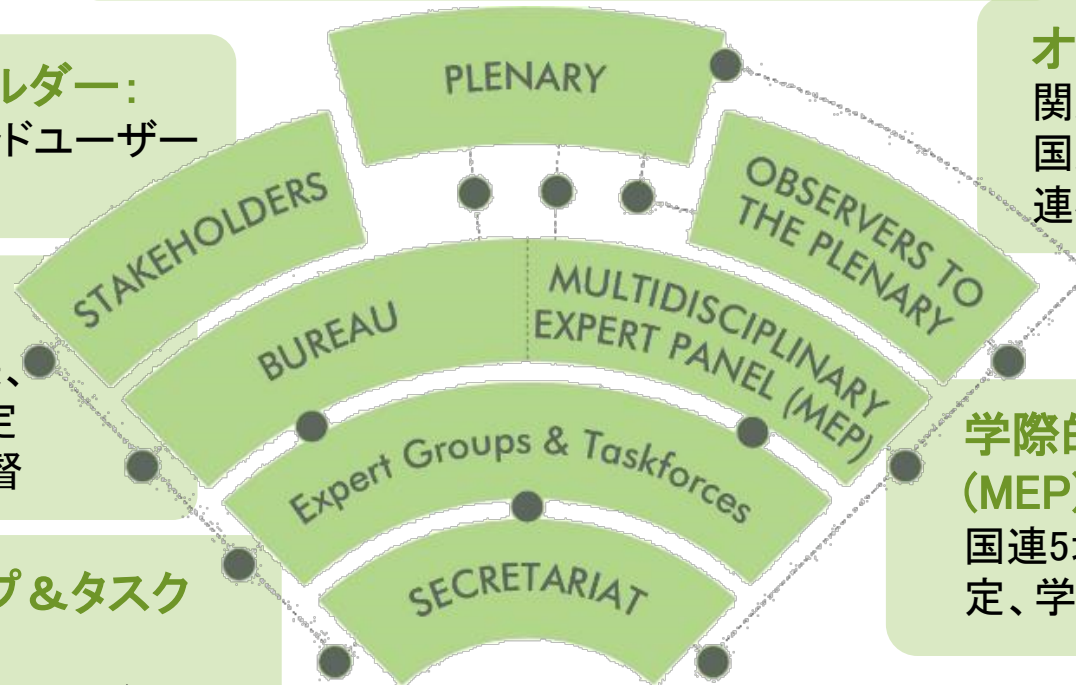
ビューロー：
加盟国の中から議長、
副議長、他5名が選定
され、運営全般を監督

**専門家グループ&タスク
フォース：**
推薦プロセスを経て選ばれた
科学者や専門家

事務局 (TSUを含む)：IPBES活動すべての実施・運営

オブザーバー：
関連条約、未加盟国、
国連機関、その他関
連機関

**学際的専門家パネル
(MEP)：**
国連5地域から5名ずつ選
定、学術的な指導



第1期作業計画2014-2018

加盟国, 関連4条約からのリクエスト等を踏まえ作成



IPBES Work Programme 2014-2018

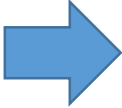
Year	2014				2015				2016				2017				2018				2019			
	1st quarter	2nd quarter	3rd quarter	4th quarter	1st quarter	2nd quarter	3rd quarter	4th quarter	1st quarter	2nd quarter	3rd quarter	4th quarter	1st quarter	2nd quarter	3rd quarter	4th quarter	1st quarter	2nd quarter	3rd quarter	4th quarter	1st quarter	2nd quarter	3rd quarter	
Deliverable					IPBES 3 12 - 17 Jan				IPBES 4 (8 - 14 Feb)				IPBES 5 (6 - 12 Mar)					IPBES 6 (9 - 15 Apr)				IPBES 7 (13 - 19 May)		
1a+1b	Task Force on Capacity Building																							
1c	Task Force on Indigenous and Local Knowledge Systems																							
1d+4b	Task Force on Knowledge and Data																							
2a	Assessment Guide																							
2b		scoping	Regional/Subregional Assessments on Biodiversity and Ecosystem Services																					
2c			scoping	Global Assessment on Biodiversity and Ecosystem Services																				
3a	Thematic Assessment on Pollination																							
3bi		scoping	Thematic Assessment on Land Degradation and Restoration																					
3bii			scoping	Thematic Assessment on Invasive Alien Species																				
3biii			scoping	Thematic Assessment on Sustainable Use of Biodiversity																				
3c	Methodological Assessment on Scenario Analysis and Modelling								Further Development of Tools and Methods for Scenario Analysis and Modelling															
3d	scoping and guide review								Methodological Assessment on Diverse Conceptualisation of Values										Further Development of Tools and Methods Regarding Concept of Value					
4a	Catalogue of Assessments																							
4c	Catalogue of Policy Support Tools and Methodologies																							
4d	Communication and Stakeholder Engagement																							
4e																								

第1期作業計画における3種類のアセスメント

- 空間スケール
 - Global
 - Regional/subregional ※日本はAP地域のTSU(技術支援機関)を承知
 - Africa, Americas, Asia Pacific, Europe and Central Asia
- 主題型 (Thematic assessment)
 - Pollination (花粉媒介)
 - Land degradation & restoration (土地劣化・回復)
 - Sustainable use of wild species (野生種の持続的利用)
 - Invasive Alien Species (侵略的外来種)
- 方法論 (Methodological assessment)

方法論に特化したアセスメントを行うことで、他のアセスメントやIPBESの他の活動における適切な方法論の採用、適用を支援

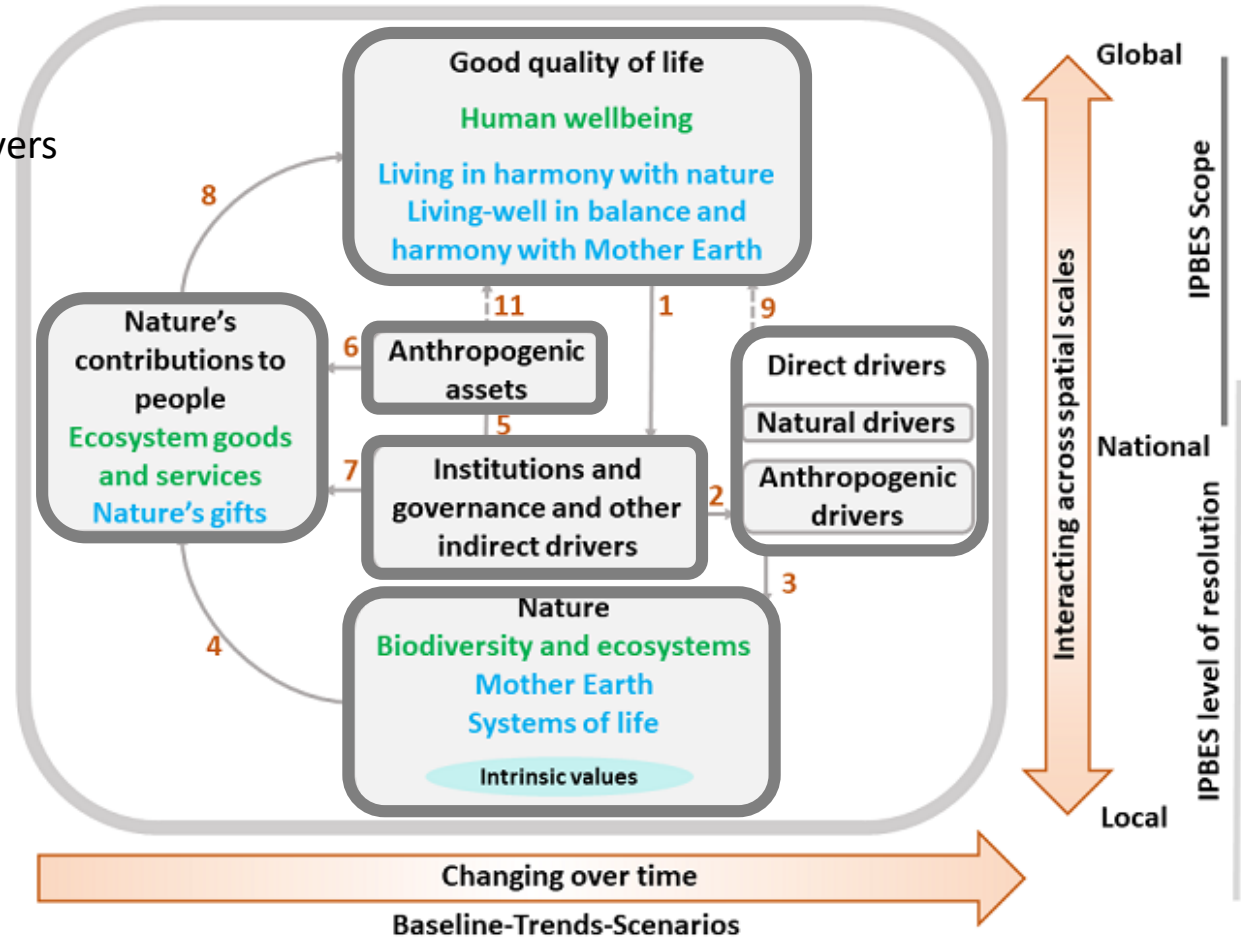
 - Scenarios & models of biodiversity & ecosystem services (シナリオ & モデル)
 - Diverse conceptualization of Values (価値の多様な概念化)

 各アセスメントレポートの政策決定者向け要約 (SPM) はプレナリで承認
SPMは関連条約の締約国会議での共通の情報基盤となる

社会-生態システムをひもとくIPBESの概念枠組み

- IPBESのプロセスに関わる関係主体間の認識共有
- アセスメント報告書の構成

- Nature
- Nature's contributions to people
- Good quality of life
- Direct drivers
- Institutions and governance, and other indirect drivers
- Anthropogenic assets



第2期作業計画(2019~2030年)の構造

目的1: 科学的評価(アセスメント)

- a) 生物多様性、水、食料、健康の相互関係の評価
- b) 生物多様性と気候変動の関連性の評価
- c) 生物多様性損失の根本的要因、社会変革の決定要因、生物多様性2050ビジョン達成のためのオプションの評価
- d) 企業が生物多様性と自然がもたらすものを与える影響・依存度の評価

目的2: 能力養成

- a) 学習・参画の強化
- b) 専門知識及び情報へのアクセス促進
- c) 国レベル・地域レベルの能力強化

目的3: 知見生成・データ管理強化

- a) 知識・情報・データに関する作業の進展
- b) 先住民・地域社会の知識体系(ILK)に関する作業の強化

目的4: 政策手法、政策支援ツール・方法論の開発・活用促進

- a) 政策手法、政策支援ツール・方法論に関する作業の進展
- b) シナリオ・モデルに関する作業の進展
- c) 多様な価値に関する作業の進展

目的5: コミュニケーション(広報)・参画

- a) コミュニケーション強化
- b) 政府の参画強化
- c) ステークホルダーの参画強化

目的6: IPBES全体の効果改善

- a) IPBESの効果に関する定期的レビュー
- b) IPBES概念的枠組のレビュー
- c) アセスメントプロセスの効果改善

向こう3-4年で実施予定のアセスメント

アセスメント

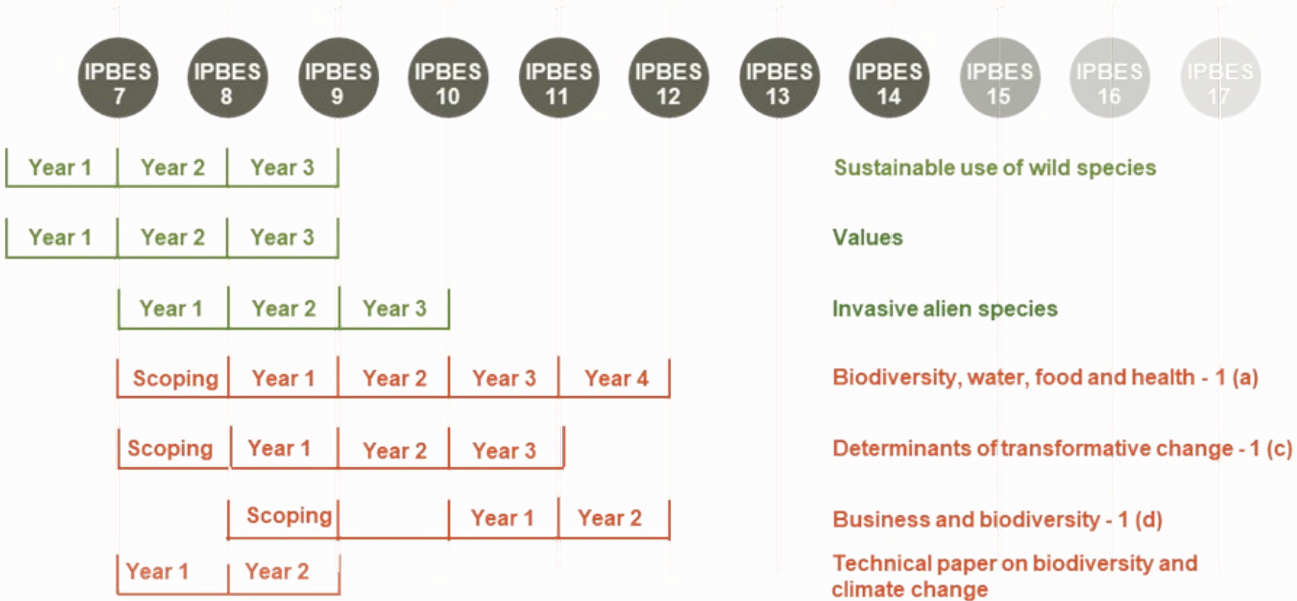
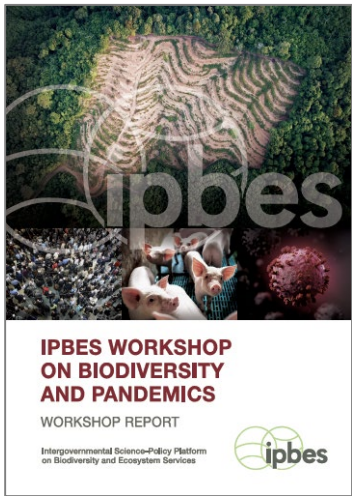
- 生物多様性・水・食料・健康の相互連関(主題型アセスメント), 2021年開始予定
- 根本的変革の決定因と選択肢(主題型アセスメント), 2021年開始予定
- ビジネスと生物多様性(方法論アセスメント), 2022年開始予定

プラットフォーム・ワークショップ(日本人参加者:0名)

生物多様性とパンデミック, 2020年実施(完了), ワークショップ・レポート公表済

IPBES-IPCC Co-sponsored Workshop(下図のtechnical paperの代替)(日本人参加者:3名)

ビジネスと生物多様性, 2020年実施(完了), ワークショップ・レポート作成中



Task forces

- Task forces
 - Capacity-building(14人;含Bureau2、MEP2)
 - Knowledge and data(13人;含Bureau1、MEP1)
 - Indigenous and local knowledge(12人;含Bureau1、MEP2)
 - Policy tools and methodologies(12人;含Bureau1、MEP2)(前専門家グループ)
 - Scenarios and models(23人;含Bureau1、MEP3)(前専門家グループ)
- 役割
 - IPBESの4つの機能の遂行・強化
 - MEP、Bureauへの助言
- アセスメントの執筆者とは別に公募、選考される
 - 現行TFの任期はIPBES-10まで(2023年頃)
- 各TFに技術支援機関(Technical Support Unit、TSU)が設置

IPBESプロセスへの研究者の専門家の関与方法

- 関与の方法 (括弧内はエフォート)
 - アセスメント (スコーピング・プロセス)
 - アセスメント (執筆者 CC30%、CLA20%、LA15%、RE10%)
 - タスクフォース (15%)
 - フェロー (15%)
 - MEP & Bureau (20%)
- タスクフォース
 - Capacity-building
 - Knowledge & data
 - Indigenous & local knowledge
 - Policy tools & methodologies
 - Scenarios & models

※日本からの応募者数が少ない
- フェロー
 - アセスメント、タスクフォース毎に公募
 - 学位取得から10年程度が目安

※日本からの応募者数が少ない

IPBESでの専門家の選考プロセス

Sustainable use
Values
Invasive alien species

131件	→	CC.2, CLA.12, LA.48
198件	→	CC.2-3, CLA./LA.60
215件	→	CC.2, CLA./LA.52

応募者

政府推薦 (80%)

NGO推薦 (20%)

事務局による整理

MEPによる選考

Management
Committeeによる選考

MEPによる承認

地域、性別、分野等

Gapの特定

Gap fillerの選出

現在までの政府推薦・採用数の状況

タイプ	デリバラブルズ	政府推薦数	採用者数	採択率
アセスメント(執筆者)	花粉媒介	2	2	100.0
	シナリオとモデル(方法論)	3	3	100.0
	アジア・オセアニア地域評価	27	22	81.5
	土地劣化	2	1	50.0
	地球規模評価	3	1	33.3
	持続可能な利用	4	2	50.0
	価値(方法論)	9	2	22.2
	侵略的外来種	6	4	66.7
	小計	56	37	66.1
アセスメント(スコーピング)	地域アセス	4	4	100.0
	土地劣化	2	0	0.0
	グローバルアセス	4	1	25.0
	持続可能な利用	2	1	50.0
	小計	12	6	50.0
専門家グループ	あらゆるスケールの評価実施	1	1	100.0
	価値	3	1	33.3
	政策支援ツール	3	2	66.7
	小計	7	4	57.1
タスクフォース	先住民及び地域住民の知識体系	2	0	0.0
	政策支援ツール	1	1	100.0
	小計	3	1	33.3
フェロー	シナリオとモデル	1	0	0.0
	侵略的外来種	2	0	0.0
	小計	3	0	0.0
合計		81	48	59.3

地域評価や価値、侵略的外来種のアセスメント以外では日本人専門家の応募が低調